



大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 (毎月一回十五日發行)

# 阿武郡報

第三十四號



## 日本國民性について

文學博士 渡邊世祐氏講演

本郡萩町出身東京帝國大學文科大學史料編纂官文學博士渡邊世祐氏は夙に歴史研鑽に趣味を有し造詣淺からず勤務の餘暇常に各地の招聘に應じ講演を重ね斯界に貢献する、こと一再ならず同氏今回墓參の爲め歸郷されたるを機とし請て一場の講演を快諾せられ「日本國民性に就て」の題下に懇切詳述され多大の感動を與へたり今其の講演の要旨を掲ぐれば左の

### 國家の元氣

品川念佛庵

夫れ青年者の特色は天真爛漫意氣旺盛の所に在り、直前邁往止まんと欲して止む能はざる所以のもの、即ち是れ青年者の生命なり、本領也。今や滔々たる天下形體上の青年はまことに勢きにあらずと雖も、精神上の青年は乃ち日を逐うて益々減少せんとするにあらずや、是れ國家の元氣消長の繋る問題なり、君國を念ふもの、誰れか深慨に禁んや。

如し

近來我國各方面に於て國民性が研究されつゝある。獨り我國のみならず、英獨其他各國に於て研究されてゐるのである。近頃國民思想の動搖のため政府當路の人々及び國事に携はる志士は如何にして之を歸着すべきかと研究焦慮してゐるのである。此の國民性に對する私の卑説を述べて將來の發展に力を致さるゝ人々及び是等の指導をさるゝ方々に申上げて一般の努力を得んとするのである。

先づ現代の國民思潮の如何を述べて我等國民はどうかして此の場合に處すべきかを云ふ。元來世界の 大勢の發足點はナポレオン戦争以後世界各國強國が平均を保ち得るに至つたもので、此の戦争で各國の基礎は定まつたのである。今より約二百四五十年前日本と利害關係を生じた國は露西亞である。露國はウラヤホストツク港を中心として日本に甚だ近い。元來此の國の國是は東方征服にあり此の國はナポレオンを喰ひ止めて以來「北方の熊」たる綽名をとり歐洲人一般より恐れられた者が更に東方を征服しやうと企てたので實に恐るべきである。

當時は英佛さへ露國には敵はなかつたが、その衝突を

は無残に連敗した、此の一戦によつて各國は露の眞價を知り是に對しての態度が一變したのである。日露戦争以前佛は獨を敵とせる關係上萬一の場合の助の爲めに露佛の約を結んだが、戦後は露國の弱いことを知つて國債に應じない様になつた、そこで露は此後國債に應じなければ以前の國債を踏み倒すと宣言され、止むなく少々宛補助をしたのである、處が戦勝の結果日本を信用する様になつたのである。日露戦争にて試験をされた露國に對する各國の恐は日々薄れて遂に獨逸をして昨年迄の大戦亂を起させる考となつたのである。我が國が日露戦争中、露に虐げられし人々(純スラブ)を利用して露國內に異論を起し、國內を沸騰せしめたのと同じ手段を歐洲戦争中獨逸は採つたのである、例へば服装を變へた人々を露の内部に送つて異人種を動して人種的争を起し統一を破つて此事の出來たのは成功でなく却つて獨逸國內の國民の思想までも破壊して、大失敗をしたのである、溢れた水は逆戻りをして國內に充滿した、獨逸は戦争には勝つたが國內の思想が崩れて遂に失敗したのである。

見をかつたのは幸である。其の時分諸國は自國の存在の爲めにはあらゆる手段を弄して露國の機嫌をとつたものである。今東方征服の爲め、露國が、日本に手を延ばさうとするとき脅さるゝものは英米である。且又露國が東方を征服するといふことは、東洋を破壊し、各國に不利を及ぼす故、此の企は喰ひ止めなければならぬ、恰度我國の文久時代それから維新當時で東方征服の無かつたのは我國の最も幸と喜ばなければならぬ所である。又一面より見れば佛は日本の一部を狙ひ、米も亦眼をつけてゐたのである、斯様に各國の的となつた我國は勢力平均の爲め前述の禍を免れたのである、勿論我國内部に於ても是に上手に順應した結果にもよるのである。英、米は自己の勢力に關するとして千島樺太の交換に大に盡力したのである。以上の如く列國は皆露を恐れ我は此の爲めに禍を免れたのである、これは我が日本歴史では不明であるが、是は當時の米國の議會に於ける報告書露國の東方材料等を見、又英國の政策より考へて近來漸く明らかになつた。かくも恐れられたる露國は日露戦争で我國の政治家と軍人との適當の處置によつて誠に好都合に彼にとつて

らず國民の健實ある、思想も又預つて力あることを認められたのである。爲めに今日は軍備擴張と同時に思想整理の必要がある露國には今や過激派が起つて財産資格の平等主義、民本主義を唱へて全露國を巻き込み獨逸の一部を席捲して遂に此の波動は全世界に擴がつたのである。されば我國に於て日々打ち寄せ來る此の波は獨り我國の岸を打つて我國の思想を破壊せんとしてるばかりでなく、全世界に打ち寄せつゝあるのである、是を如何にして防いだらよからうかと、近來研究さるゝのは此の問題である。さて、我國では、上帝室は大宗家で我等はその分家である、本末の關係ある我國は支那の數多の民姓あるに比し父共和制に於ける選舉制とは大に異つてゐる。他國では愛國と忠義とは全く別物である然るに我國にては一である。此の理由は歴代の天皇が厚情を垂れ給ひしこと、本末の關係とに依るのである、例へば戰國時代 後奈良天皇は疫病流行當時各國の一の宮に御親筆の法華經を献じて是の鎮まる様にと祈願され「朕氏父母として徳薄く疫病起て親筆の此の經の功德によりて病の鎮ることあらば幸なり。」とあるが如きで、今

尙肥後、安房、甲斐に残つてゐるのである。後水尾、後櫻町の兩帝近くは 明治天皇の御事蹟など甚だ多くの例がある。かくの如き麗はしき帝徳は皇室と臣民とを近づかして美風をなさしめたのである。

東宮殿下の御讀物として私は歴代の帝の御美事を綴り奉つて差上げた、白鳥博士はこれを御前にて御講義申し上げられたのである。

花園天皇が後光嚴天皇を御戒められし御言に「何の效も無く皇室の子孫であるが爲めに皇位を繼承するは不可である、何か效が有りてこそ始めて皇位を繼ぐべし」と上には如是の御美德がある。如上の關係にて長い主従の關係は連いたのである。

今迄述べた事に依つて我國民性の解決をつけるは容易である。

是を要するに我國民は同化力が最も大である。例へば佛教は自由平等主義にて元來我國民思想とは容れたいが本地垂蹟説などにて充分同化された、又漢學にしても大に同化して我國民の思想を支配して立派に使はれてゐる。

維新以後歐米文明の輸入當時は少々動搖したが教育勅語等より我が思想は融和して日本的とした只に智識の

みならず人種の如きも亦同じく大和民族を形成したのである。

此の同化力の強いことは、將來如何なる思想が渡來するとも決して我國民思想を破壊することは無いと信ずる。

是迄の歴史の證明によつて此の消化力の強大なることを知ると雖も此の消化力を尙強大ならしむことが必要である。

殊に維新の魁たる我防長二州は同化力を養ふ上に於ても他州に劣らず大に努力して同化力を發達せしめ將來益々國家に盡力されんことを希望してやまぬ次第であります。

庶務

町村長集會

五月三日 町村長集會を開催し郡長より指示したる事項其の他左の如し

一、縣告諭の普及徹底に關する件

客月一日山口縣告諭第一號を以て選舉界の廓清を圖り同第二號を以て民力の涵養を期すべく各其の要道を擧げ以て縣民一般の奮起を促されたり之が普及徹底方に就ては示談會又は報德會等民衆會同の機を捉らへ趣旨の敷行を行はるゝ等最美の方法を講せらるべく曩に通牒せる所ありしが本縣地方改良會に於ては之を以て會の實行事項とし會員協力一致して其の實行を期すべき趣なれば各位宜しく其の町村に在る會員と相策應提擧し十分告諭の趣旨を徹底するに努め其の効果を擧ぐべきやう特に盡力せられんことを望む

二、示談會報德會の開催勵行に關する件

町村内各部落に於て示談會又は報德會を開催し地方各般の状況を知悉せしむると共に法令其の他一般に周知せしむべき事項の徹底を圖るは極めて有効適切なる方法にして是迄各町村に於て實行せられつゝあるもの多きを知るも動もすれば方法形式に失し所期の目的を達成するに十分ならざるものなきにあらざると聞く各位宜しく一段の考慮を加へ之が開催に力を致し其の効果を確實ならしめられたし

三、租稅滯納の矯弊に關する件

四、海事思想鼓吹に關する件

租稅滯納の惡弊を艾除する事に關しては各位の督勵努力に依り近時著しく良好なる成績を收め得たりと雖も四、五の町村に於て今尙充分に其の目的を達成するに至らざるものあり既に來らんとする戸數割附加稅の納期は概ね五、六月の頃なれば此際の方各位一段の注意を加へ全郡完納の實績を擧ぐべきやう努力せられんことを望む

注意事項

- 一、地方改良の指導に關する件
- 一、勤儉貯蓄の奨勵に關する件
- 一、統計調査委員に關する件
- 一、日本海員救濟會及防長海外協會會員募集に關する件

協議事項

一、活動寫真開催に關する件

阿武郡神職會及阿武郡佛教團經費豫算

本郡神職會及佛教團に於ては過般總會を開き大正八年度經費及事業等に就き附議決定せる所ありたるが本年度は主なる事業の一たる講演講習を擴張し之に要する費金を増大し適當の講師を招聘し各町村を巡講せしめ社會教育に資せんとす今其豫算を掲ぐれば左の如し

▲大正八年度阿武郡神職會歳入歳出豫算

第一項 經費釀出金	金貳百八拾貳圓
第一目 會員釀出金	金百九拾五圓
第二目 會員特別釀出金	金八拾七圓
第二項 運用金利息	金壹圓
第三項 補助金	金七拾圓
第四項 繰越金	金五圓
合計	金參百五拾八圓
歳出ノ部	

第一項 事務所費

第二項 圖書印刷費

第三項 講演會費

第一目 講師報酬

第二目 雜費

第四項 講習會又ハ講演會費

第五項 豫備費

合計

▲大正八年度阿武郡佛教團歳入歳出豫算

第一、各町村佛教團賦課金	金參百圓八拾七錢
第二、正團員團費	金七拾貳圓五拾錢
第三、郡補助金	金七拾圓
合計	金四百四拾參圓參拾七錢
歳入ノ部	
一、會議費	金五拾圓
二、事務所費	金貳拾圓
三、職員旅費	金五拾圓
四、備品費	金五拾圓
五、文具費	金拾圓
六、消耗品費	金拾五圓

七、印刷費	金拾五圓
八、郵電費	金貳拾圓
九、講演會費	金貳百圓
一〇、雇員手當	金五圓
一一、使丁費	金五圓
一二、豫備費	金參圓參拾七錢
合計	金四百四拾參圓參拾七錢

産業

勸業主任集會

四月三十日より三日間郡會議事堂に於て郡内各町村勸業主任集會を開催し郡役所より提出の指示諮問及協議事項左の如し

- 指示事項
- 一、稻純系選擇の件
  - 二、米麥原種配付の件
  - 三、肥料共同購入及資金供給の件

協議事項

- 四、耕地整理施行の件
- 五、疊表製造獎勵の件
- 六、畜牛改良増殖に關する件
- 七、馬匹及畜牛共進會開催の件
- 八、村有造林作業準備の件
- 九、樹苗養成獎勵の件
- 一〇、採草地手入の件
- 一一、蠶の品種統一の件
- 一二、蠶業組合普及及改善の件
- 一三、養蠶技術者養成の件
- 一四、農會々則變更の件
- 一五、上地手續履行の件

諮問事項

- 一、農具市開催の件

食糧問題の就て

既往五年に亘る戦禍は今や平和の曙光を見るに至りしと雖も茲に端なくも食糧問題を誘起し世界各國本問題の解決に汲々たらざるものは稀なり我邦に於ても亦本問題を如何に解決すべきかは實に目下朝野を悩ませる問題にして或は食糧の増殖に或は食糧の節約に種々研究せられつゝあるが如し今山梨縣山梨自治會主催食糧問題協議會に於て研究せし所を得たれば參考の爲め左に掲ぐ

第一 食糧の増殖

- 一、耕地の擴張並改良
- (イ)擴張 山林原野の開墾、地目變換に據る開田、空地利用
- (ロ)改良 灌溉、排水、荒蕪地の改良
- 二、米麥品種改良 增收本位の品種改良、町村採種圃の増設、種子の普及及自家採種圃の設置
- 三、施肥の改良 肥料の増施、經濟的施肥、自給肥料の増殖、施肥と深耕
- 四、病虫害の驅除豫防

苗代害虫驅除と萎縮病豫防、本田病虫害防除  
麥黑穗病豫防、貯穀の害虫驅除

補助食用作物の栽培  
甘藷、馬鈴薯、玉蜀黍、蕎麥、桑園間作  
休閑田利用

第二 食糧の節約

- 甲、米の節約
    - 例
    - 一、半搗米を使用すること
    - 二、米無日を設くること
    - 三、濫費を戒むること
  - 乙、雜穀の利用
    - 例
    - 一、麥 飯
    - 二、馬鈴薯 飯
- 米一升到適宜に切りたる馬鈴薯五合水一升三合を入れ搥少量を加へて炊ぐものとす、此の馬鈴薯を一度に多量に製造して貯藏し置くには適當に切りたる馬鈴薯を水に浸し數回水を取り換へたる後、箆に入れ熱湯に二三十秒位浸し、馬鈴薯が全部水色に變色したる時取り出し之を茹等

- に擴げ晴天ならば一日位乾燥して貯藏す、斯くの如くすれば數年間貯藏し得るのみならず毫も風味を害せらるゝ事なし
- 三、玉蜀黍 飯 玉蜀黍を適宜に粉碎して米に加へて炊ぐものとす
- 四、甘藷 飯 馬鈴薯飯と同様にす
- 五、粟 飯 米一升、粟一升、甘藷三百目の割合とし始め甘藷と米とを一所に炊ぎ煮立ちたる時粟を入るゝをよしとす
- 六、鳩 豆 飯 數時間水に浸し置きたる脱脂豆を米に混じ搥少量を加へて炊ぐものとす
- 七、芋 麥 飯 芋百五十匁(何芋にてもよし)麥二合八勺餘、搥一匁半の割合とし麥は普通の如く能く洗ひ芋は皮を剥きて適宜に切り麥と混じて炊ぎ煮立ちたる時搥を入れて味を附す
- 八、甘藷蕎麥練り

蕎麥七十三匁、甘藷百五十匁、搥少量の割合とし甘藷を煮て軟くなりたる時、之れをつぶし、其の中に搥を入れ蕎麥粉を少量宛入れて能く練り合せ味噌、醬油、黃大豆粉、小豆粉等を附して食す

九、芋 稗 飯

稗四合五勺、芋五合、搥二匁の割合とし稗をよく洗ひ芋を亂切にして混ぜ合せ搥を加へて炊ぐものとす

十、麵 麩

麵麩を製せんとするの前後パン種一個を華氏八十度内外の微温湯二合に三十分内外、浸し置き柔軟となりたる時攪拌して溶解し小麥粉百二十匁を加へ、更に良く攪拌してどろどろしたるものとなし容器に蓋をなし温暖なる所に置き翌朝迄醗酵さすべし。翌朝に至り夏は華氏八十度冬は百度内外の微温湯二合搥二茶匙砂糖五茶匙を混じ之れに小麥粉二百四五十匁を加へ十分内外を費し捏粉に彈力の生ずる迄良く捏ね容器に入れ二時間半乃至三時間醗酵せしめ、捏粉の容積二倍大に膨脹せし

時再び僅に捏ねて瓦斯を排出し更に一時間膨脹せしめ之れを容器より取り出して五等分して、瓦斯を排出する爲めなるべく固く團子に形造し、天板なり、麵麩型に入れて天火或は「ストーヴ」にて焙焼す、麵麩製造には華氏八十度以下に冷却し又は百度以上に熱したる材料及器具を使用すべからず、尙此の麵麩には玄米は勿論總ての雜穀粉を混用することを得

十一、手製麵類

小麦粉又は蕎麥粉を水にて捏ね適宜に切り湯にてゆでウドン若は蕎麥と爲し又は汁にて煮てホトウを作る、ホトウ汁の味として入るゝには南瓜、馬鈴薯、大根、菜、ササゲ等適當なり此の麵類製造の時間と燃料とを節約せむには寒中寒水にて粉を多量に捏ね之を方二三分長二三寸位に切りて乾燥貯藏し置き必要の都度湯又は汁にて煮て食するを良しとす

十二、馬鈴薯練焼

所要の馬鈴薯をわろしにてわろし之れに小麦粉を加ふ其の程度は天プラの皮よりは少しく柔く

味増よりは少しく堅くなる迄小麦粉を混ぜホーロクに入れ薄焼の如く焼くべし此の練焼は辨當に尤も適す

十三、馬鈴薯練焼

ポテトフリッターの如く捏ね汁を沸騰し置きたる中へ貝シヤクンにて適當の大きさにすくひ入れて煮るものとす

十四、挽割小麦

小麦を、挽割麥と同大に挽割り、此の一合に熱湯六合を加へ煮こぼさぬため鍋に蓋をせず文火に掛け三十分内外煮沸して食用す又甘藷を適當の大きさに切り之れを混じて煮沸すれば味一層美なり、副食には味増最も適す

十五、玉蜀黍と甘藷粥

甘藷を、五六分、乃至、一寸位のサイノ目に切り、之れを湯煮し煮ゆる時玉蜀黍粉をかきこみ、固まりにならぬ様絶えず攪拌し、二三十分間煮沸し温さ中に味噌醬油を附けて食す、尙此れを少し堅味に造り重箱等に流し込み冷却したる時普通の切餅大に切り附着せぬためホーロクに油を引き其の上に乗せ両面をトビ色に焼き砂

糖等を振掛ければ菓子代用に甚だ妙なり、之れをコインミールフリッターと云ふ

十六、燒餅

本品は總ての雜穀類（小麦及蕎麥は他の粉と等分位に混合す可し）を使用することを得、其の製法は雜穀粉を捏鉢に入れ片手に菜箸を取り片手に藥罐を持ちて粉を攪拌しつゝ、團子の堅さになる迄熱湯を注ぎ少しく冷却したる時、チバリ氣を出す爲め手にて能く捏ね此れを大福餅大に分割し三四分位の厚さの團子となし熱したるホーロクの上に載せて表裏両面より焼きて食す、尙食するに際しては、生焼のものを食すべからず若し生焼のものを食すれば溜飲シヤクを起す副食には醬油味噌等を使用す

兵事

大正八年度海軍志願兵に採用せられ六月一日入團者名左の如し

萩町	岡正夫	森野末藏
椿郷東分村	三分一徳藏	藤村富藏
	波多野千吉	長田三藏
	吉野秀秋	
	出羽五郎吉	
椿村	宗村伊八	有田義嘉
	山田孫四郎	大田吉藏
三見村	河村茂一	波多野繁雄
	吉村見一	景由秀雄
明木村	木原重好	藤田初藏
	阿部徳熊	神崎勇雄
	松村正一	田村宗一
佐々並村	吉富義雄	寺山要丸
川上村	藤原勇	上田光一
生雲村	長岡乙義	板垣寛一
地福村	山根久人	
徳佐村	村田隆人	
吉部村	岡兵熊	
福川村	中原貞雄	藤田清一
	白神良亮	阿武又五郎
	阿武信一	

紫福村 金子好一 栗栖秀吉  
 大井村 羽鳥秀藏  
 奈古村 重富三雄  
 宇田郷村 小島効助 金子清藏  
 福賀村 廣石吉雄 藤村嘉介  
 彌富村 椿義雄  
 小川村 山本常吉 岩本孝夫  
 平田健槌 野村順弑  
 山本勝治  
 計 五十名

六月一日輜重兵第五大隊へ現役輜重輸卒入營人名は左の如し  
 椿郷東分村 三谷峰一 嘉年村 米原爲雄  
 彌富村 兒玉藤吉 小川村 上田福馬  
 田萬崎村 須子時一

六月一日より九十日間教育召集を命せられたる補充兵人名左の如し  
 萩町 工兵平野 與三 椿東村 歩兵三好 五一  
 山田村 砲兵上領 三作 三見村 歩兵阿武亥三郎  
 生雲村 砲兵原田 三治 徳佐村 砲兵河井 又七

嘉年村 歩兵永安 末夫 吉部村 同 高橋源助  
 紫福村 同 安野權輔

德佐村忠魂碑除幕式

德佐村忠魂碑は去る明治三十九年建設を發起せしも種々の事情の爲延期せしが昨七年工を起し同村郷社八幡宮境内に地を相し同村字御所河内奥に石材を求め在郷軍人會員は大草會長を始め何れも腰辨當にて約八百貫以上の石材二個の搬出に従事し百三十餘人役を要し字市場坂手御所河内婦人會員の應援ありて豫定の搬出を了り其土工も亦會員熱心に従事し遂に三百四十餘人役を費し竣成を見るに至り去四月二十日之れが除幕式を舉行し大草分會長の辭を述べ神官の祓式ありて軍人遺族杉本梅五郎氏恭しく碑前に進み除幕をなし大草分會長の式辭に次で椿副會長の経過報告來賓の祝辭あり終つて午後引續き招魂祭を神式佛式を以て行ひ莊嚴を極め各部落及婦人會よりの寄贈に係る撒餅其の他餘興として擊劍、角力、競馬を催したり當日は殊の外天氣晴朗人出無慮四千餘人に達し頗る盛儀なりし

明木村忠魂碑除幕式

明木村忠魂碑は大正六年六月起工滿二年を以て竣工を告げたるものにして臺石碑石等は總て徳山産の花崗石にして碑石の長さ一丈一尺地盤を抜くこと二丈餘工費總計二千七百一圓を要し縣道に沿ふたる舊小學校當時公會堂の前庭に建設せられたるものにして大正八年五月十日之が除幕式及戦病死者の招魂祭を舉行し内藤分會長學式の挨拶に次で除幕をなし建築委員兒玉清助氏は澄川本郡技手計畫報告を代讀し藤井建築委員長の祝辭内藤分會長の挨拶にて招魂祭に移り祓式招魂式献饌に次で田村祭主の祝詞藤井村長内藤分會長の祭文朗讀あり岡村阿武郡長は來賓を代表して祝詞を述べ撒餅にて式を終り各部落より寄贈の撒餅其の他餘興角力あり當日は天氣晴朗にして人出多く非常なる盛會なりし

辭令

神職異動

阿武郡萩町郷社住吉神社社司兼  
 縣社志都岐山神社社掌

縣社松陰神社社掌  
 阿武郡椿郷東分村椿八幡宮末社白山神社社掌 中津江春三  
 依願免縣社志都岐山神社社掌(四月十四日)  
 依願免阿武郡椿郷東分村椿八幡宮末社白山神社社掌(四月二十二日)  
 津村彦三  
 補阿武郡萩町春日神社攝社多越神社社掌(四月二十二日)  
 阿武郡徳佐村八幡宮社掌 佐伯節生  
 八級俸ヲ給ス(四月十四日)  
 阿武郡福賀村大字福田下村社八幡宮社掌  
 松原隼雄  
 六級俸ヲ給ス(四月十四日)  
 阿武郡福川村郷社八幡宮社司 金田金正  
 七級俸ヲ給ス(五月十日)  
 阿武郡椿郷東分村椿八幡宮末社鶴江神社社掌  
 高田盛穂  
 八級俸ヲ給ス(五月十日)  
 同 高田盛穂

兼補阿武郡椿郷東分村椿八幡宮末社白山神社社掌(五月十日)  
 阿武郡萩町郷社住吉神社社司兼縣社松陰神社社司  
 中津江春三

依願免兼職(五月十四日)

商業學校教員異動

佐方 克己

萩町立萩商業學校教諭ニ任ス  
十級俸當分貳拾壹圓給與

町村吏員異動

大正八年三月卅一日辭職	雲生村助役	福江 孫一
同 四月七日辭職	地福村助役	伊藤 藤一
同 五月八日就職	彌富村助役	岩本好太郎 再選
同 五月十日退職	福川村長	佐伯 庄吉 滿期

小學校醫異動

三見尋常高等小學校醫

年手當金四拾圓給與(五月五日)  
大橋 明治  
彌政 竹雄  
德佐尋常高等小學校龜山尋常小學校醫ヲ囑託ス  
(五月五日)

轉任月日	轉任校俸	給舊任校職名	氏名
四月廿一日	明木九、上藏	目喜訓導	吉屋金熊
同	藏目喜十、上生	雲同	上利賢介
同	嘉年九、下持	坂同	三浦音熊
五月五日	椿西十、下越	濱同	堀江ヤエコ
同	多磨五、上下	小川准訓導	坂井川五一
同	育英四、下福	田同	安富久太郎

退職月日	校名	職名	氏名
四月三十日	明倫	訓導	清水健太郎
五月十三日	嘉年	同	三浦音熊

實業補習學校教員異動

新任月日	校名	職名	俸給	氏名
五月九日	奈古	訓導兼		松浦良太

年手當金四拾圓給與

囑託ヲ解ク(五月五日)

小學校教員異動

新任月日	校名	俸給	職名	氏名
四月廿二日	大島	月俸拾參圓	准訓導心得	大谷 義雄
四月廿一日	三見	十二、上	訓導	田中 秀輔
四月廿四日	高俣	月俸拾貳圓	准訓導心得	瀬戸 藤之
同	奈古	月俸拾貳圓	同	井上マツヨ
同	奈古	月俸拾貳圓	同	兼田 三衛
四月廿三日	嘉年	九、上	訓導	原川 ハナ
同	福田	九、上	同	白松 ウメ
同	地福	九、上	同	白井 敏子
四月三十日	紫福	月俸拾圓	准訓導心得	岩武 綾
同	嘉年	月俸拾九圓	同	山根松太郎
五月二日	椿東	八、上	訓導	樋田 ウラ
同	明倫	六、下	准訓導	杉山登志子

德佐尋常高等小學校醫  
龜山尋常小學校醫

岡 清 次

同	小川	訓導	兼	尾坂喜與子
同	宇田	同	兼	西尾正史
同	奈古	同	兼	大藤直人
同	奈古	同	兼	末田今治

小學校教員休職

椿西尋常高等小學校訓導

小學校令施行規則第二百二十三條第一號ニ依リ休職ヲ命ス  
(四月三十日) 堀 熊 吉

圖書館職員異動

地福尋常高等小學校  
訓導 白松 又 祐  
地福文庫書記ニ任ス(五月十五日)  
同  
地福文庫書記ニ任ス(五月十五日)  
訓導 中村 敏 磨



○世と誠む

- 一ツとや日々新たに改めて善きに移りて悪を去れく
- 二ツとや再び此世に出でざると思ひ返して身を守れく
- 三ツとや見るもの聞くもの氣を附上移り易きは人心く
- 四ツとや世の中いかほど變る共君と親との恩を知れく
- 五ツとやいつしも變らぬ天地内も一ツの外はなきく
- 六ツとや報は我身に有としれ善きも悪きも人になしく
- 七ツとや何をなすにも誠あれ誠ならねばうとまるく
- 八ツとや大和心もみがかねばまことの國の光なしく
- 九ツとや心一つを許すなよ我は心の姿なりく
- 十ツとや兎にも角にも身の上を朝な夕なに顧みよく

参 考 資 料

町村名	第八表 戸數人口		計人	現住戸數	現住		計人
	男本	女籍			男現	女住	
萩	二、六三九	一、三二五	三、九六四	三、三九四	八、五一九	八、六四〇	一七、一五九
椿郷東分	五、七二一	五、六四四	一一、三六五	一、七三二	四、八九四	四、九四六	九、八四〇
山田	一、八〇三	一、八七五	三、六七八	五一九	一、二八一	一、三八三	二、六六四
三見	二、九七五	二、七五五	五、七三〇	七九七	二、四七〇	二、三〇一	四、七七二
明木	一、九五〇	一、九〇九	三、八五九	五五九	一、七五三	一、七五四	三、五〇七
佐々並	一、四五〇	一、三九六	二、八四六	四一九	一、二三〇	一、二三七	二、四六七
川上	一、五二九	一、四七四	三、〇〇三	四六七	一、三三〇	一、三五九	二、六八九
篠生	二、二五五	二、〇八八	四、三四三	七四〇	二、〇四七	一、九六三	四、〇一〇
生雲	一、三九三	一、二九二	二、六八五	五四	一、三二八	一、二三五	二、五五三
地福	二、四五四	二、三三一	四、七八五	九七	二、五〇五	二、三八八	四、八九三
徳佐	一、七四六	一、六三三	三、三七八	六二〇	一、五八八	一、五七四	三、一六一
嘉年	二、七三三	二、六四一	五、三七三	一、二八一	二、七三〇	二、五九八	五、三二八
高俣	一、一九〇	一、一二三	二、三一三	四八〇	九九六	九八八	一、九八四
吉部	一、三九二	一、三二五	二、七一七	五五三	一、二八三	一、二四四	二、五二七
福川	一、五八〇	一、五四五	三、一二五	五四四	一、二七四	一、二五一	二、五二五
紫福	二、六八四	二、四七七	五、一六一	八七五	二、四七〇	二、三五三	四、八二三
大井	一、七九一	一、六六六	三、四五七	六三三	一、六〇八	一、五二六	三、一三四
	一、七九〇	一、七五四	三、五四四	五五〇	一、五二六	一、五二二	三、〇四七

(大正八年)

目次

- 一、戸數人口表
- 二、町村立小學校兒童出席歩合
- 三、町村青年團事蹟調
- 四、稻共同採種組合狀況調査表
- 五、農家戸數ニ對スル畜牛數調
- 六、優等ト認ムヘキ蠶種

第三十四號

町村名	男	女	計	現住戶數	男	女	計
白東水	九九、二九	九八、二〇	九八、六五	二、二五八	二、二四一	四、三九九	一、一五六
椿東水	九八、三三	九八、八七	九八、五七	一、一六四	一、〇三四	二、一九八	一、一五
德上佐	九八、〇六	九九、〇四	九八、四二	一、四四五	一、四四七	二、八九二	一、〇九
川田	九八、三四	九九、二四	九八、三九	二、八九三	二、七九七	五、六九〇	一、〇
宇田	九九、四九	九九、二四	九九、一〇	一、四七〇	二、七九七	四、二六七	一、一
小川	九七、七七	九八、三八	八八、〇七	二、二八二	二、二六	四、三〇八	一、一
明倫	九六、八六	九九、五九	九八、〇三	一、四七〇	一、四〇一	二、八七一	一、一
奈古	九七、〇二	九九、三八	九七、八一	二、八九三	二、七九七	五、六九〇	一、一
彌富	九七、三三	九九、四四	九七、七八	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一
地福	九六、七四	九九、一七	九七、六二	六〇四	二、八九三	四、〇二六	一、一
篠生	九六、〇九	九九、五九	九七、五二	九七九	一、四七〇	二、八七一	一、一
育英	九六、四一	九九、六六	九七、一五	六〇四	一、四七〇	二、八七一	一、一
三並	九六、六八	九九、六七	九六、九六	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一
佐田	九六、六八	九九、六七	九六、六八	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一
福雲	九六、六五	九九、七三	九六、六八	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一
高侯	九七、四〇	九九、七四	九六、六八	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一
多磨	九七、六〇	九九、〇二	九六、五五	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一
吉部	九六、四〇	九九、四七	九六、四三	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一
福川	九六、二九	九五、三八	九五、八五	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一
大島	九六、〇〇	八一、二一	九二、四六	一、〇三五	二、八九三	四、〇二六	一、一

(三)

第三十四號

町村名	男	女	計	現住戶數	男	女	計
奈古	二、四四	二、三四	四、七四八	八二七	二、二五八	二、二四一	四、三九九
宇田郷	一、三六	一、四二	二、七七八	三九九	一、一六四	一、〇三四	二、一九八
福賀	一、五四	一、五一	三、〇六八	六四一	一、四四五	一、四四七	二、八九二
須佐	三、二〇	三、二二	六、三六六	一、〇三五	二、八九三	二、七九七	五、六九〇
彌富	一、四九	一、三六	二、八二四	六〇四	一、四七〇	一、四〇一	二、八七一
小川	二、二九	二、二〇	四、四九六	九七九	二、二八二	二、二六	四、三〇八
田万崎	二、三六	二、二四	四、五六九	八二二	二、二八九	二、一〇〇	四、三九九
六島	一、〇六	一、〇四	二、一〇七	三〇三	一、〇四五	一、〇三五	二、〇八〇
見島	一、四三	一、四〇	二、八二九	四〇〇	一、二七三	一、三三一	二、五八四
合計	六五、〇四	六三、五四	一二八、五三	二、五五三	五、七七八	五、六五三	一一、四三一

町村立小學校高等科兒童出席歩合表

學校名	男	女	計	本順	月	前	位
椿西	一〇〇、〇〇	九九、四二	九九、七八	四月分	五月	四月	一七
明木	九九、八一	九九、八七	九九、二七	四月分	五月	四月	一三
嘉年	九九、二四	九八、六八	九九、一〇	四月分	五月	四月	一三
紫福	九八、六〇	九九、五八	九八、九五	四月分	五月	四月	一三
大井	九八、二五	九九、四五	九八、八〇	四月分	五月	四月	一三

(二)

多龜小嘉川椿上野下明長福大篠大育相高地奈	磨山川東田川呂川倫高田井生島英島侯福古	九七、二九	九七、三五	九七、三三	九六、八八	九六、二五	九六、八二	九七、七八	九七、六八	九五、八九	九五、〇四	九五、四〇	九五、九六	九六、三一	九五、七七	九八、三八	九六、二〇	九九、〇〇	九七、四一	九六、一四	九六、二四	
九七、四九	九七、三八	九七、四六	九七、六九	九七、二〇	九七、二〇	九六、八二	九四、七四	九五、三四	九五、九三	九五、七一	九五、七七	九六、六三	九六、一九	九六、三七	九四、一八	九五、七二	九二、一〇	九三、四八	九五、〇六	九四、六〇	九七、三九	九七、三六
九七、三六	九七、二七	九七、〇三	九七、二七	九六、六二	九六、六〇	九六、五九	九六、四一	九六、四一	九六、四一	九六、二七	九六、二七	九六、二五	九六、二一	九六、二一	九六、一三	九五、九八	九五、八六	九五、六三	九五、五六	九五、四一	九七、三六	九七、三六
一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	一三	一三
一五	一六	一七	一七	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

學 校 名	男	女	計	本 順	月	前	位
町村立小學校尋常科兒童出席歩合表					四月	分	
椿西	九九、四〇	九九、四五	九九、四三	一	一	一	六
高瀬	九九、一九	九九、一〇	九九、一五	二	二	二	九
持坂	九九、一一	九八、五六	九八、八六	三	三	三	四
明木	九八、七二	九八、二七	九八、六二	四	四	四	五
字間	九八、三八	九七、五四	九八、一四	五	五	五	六
木野	九九、〇〇	九七、三三	九八、一〇	六	六	六	七
立川	九八、七三	九八、〇五	九七、九一	七	七	七	八
福目	九七、七八	九八、〇三	九七、九一	八	八	八	〇
篠目	九七、八一	九七、七〇	九七、八四	九	九	九	一
紫濱	九七、九二	九七、七一	九七、八一	一〇	一〇	一〇	二
越々	九六、六四	九八、三八	九七、五六	一一	一一	一一	三
佐並				一二	一二	一二	四
見島	八一、二二	八七、〇〇	八一、八八		二七		二七
本月郡平均	九七、一三	九六、九〇	九七、一〇				
前月郡平均	九三、二五	九四、〇四	九三、三四				

第三十四號

明木	佐並	川上	篠生	生雲	地福	德佐	嘉年	高俣	吉部	福川	紫福	大井	奈古	宇田	福賀	須佐	彌富	小川	田崎	六島
九七	二七	九五	八九	一五	九三	二九	七六	一三	一〇	二五	二六	二六	二五	一〇	一四	三〇	一四	二〇	二二	二七
二	九	一五	一六	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
九四、四	五五、八	六〇、〇	四四、六	五五、一	七一、六	六三、一	七一、三	四九、六	四九、六	四九、九	六四、八	三九、九	四八、二	五八、二	七三、三	七三、三	八一、二	七六、八	四六、六	七五、五
六	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
七六、五	一	六八、七	四四、六	七一、五	七一、六	六三、一	七一、三	四九、六	四九、六	四九、九	六四、八	三九、九	四八、二	五八、二	七三、三	七三、三	八一、二	七六、八	四六、六	八二、九
九七	一六	九五	八九	一五	九三	二九	七六	一三	一〇	二五	二六	二六	二五	一〇	一四	三〇	一四	二〇	二二	二七
一〇〇、〇	九九、九	一〇〇、〇	七六、四	五八、六	七五、八	九七、四	一〇〇、〇	六六、一	一〇〇、〇	六二、五	九〇、九	一〇〇、〇	六六、二	八六、二	八八、五	七一、九	五二、七	一〇〇、〇	一〇〇、〇	七〇、〇
五四	八	八	二	四	七	三	六	一	一	八	六	八	六	二	四	一	一	三	三	六
七六、九	六八、五	六五、八	六〇、一	六六、〇	八二、九	六六、九	八六、八	七六、八	八七、二	二七、四	九五、二	四三、四	五八、五	六三、一	七〇、八	六二、七	三一、五	八五、〇	八七、六	七三、五
一七	一七	三	一	二	二	一	二	二	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八〇、七	六六、一	七一、三	三三、八	七九、六	七五、五	六三、八	六三、三	七九、三	四六、六	四八、四	八八、四	四八、四	四八、四	七三、三	五八、四	八八、二	三五、八	八〇、七	六二、六	七九、五
每月一回精	會社研究	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設	其他施設
二五	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

(七)

第三十四號

町村名	種目	團員數	支部數	勸誘率	出席率	例會出席率	補習學校生徒數	體育三課スル施設	精神修養上ノ施設	其他施設	經費基本財
萩	椿郷東分	四五三	一	八、四	一一	一〇、三	四三	九、五	一一	四、八	三六、五
山田	見	二八	三	二六、八	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
鈴野	川島	八八	四	二六、六	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
見島	雲	九三	四	二六、六	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
吉部	喜	九二	四	二六、六	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
藏喜	目	九一	四	二六、六	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
白水	喜	九〇	四	二六、六	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
德佐	喜	八八	四	二六、六	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
彌富	見	八八	四	二六、六	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
三見	見	八八	四	二六、六	四四	三三、二	二九	六二、〇	七三	三六、一	五〇、四
本月郡平均		九六、二七		九四、八七		九五、六九		九四、〇五		九四、四六	
前月郡平均		九六、二七		九四、八七		九五、六九		九四、〇五		九四、四六	
學校名											
男		九三、八二		九六、四三		九五、五一		九六、五二		九三、六四	
女		九三、八二		九六、四三		九五、五一		九六、五二		九三、六四	
計		九三、八二		九六、四三		九五、五一		九六、五二		九三、六四	
本		九三、八二		九六、四三		九五、五一		九六、五二		九三、六四	
前		九三、八二		九六、四三		九五、五一		九六、五二		九三、六四	
位		九三、八二		九六、四三		九五、五一		九六、五二		九三、六四	

(六)

町村青年團事蹟調

大正八年一月調

見島	三六	四	一〇	五〇、六	三	七、三	一七六	八二、四	一	不詳	二	不詳	一	三
合計	四、六二〇	三六	二九六	五五、三	二二二	五五、八	四八	八〇、三	四二七	六七、〇	二七三	六四、三	一	六四三

備考經費ハ主ニ團員ノ勤勞取得シタルモノナルガ故ニ計上シ難キモノハ掲記セス

大正七年稻共同採種組合狀況調査

大正七年實行調

町村名	種別	組合數	組合人員	採種總量	町村名	種別	組合數	組合人員	採種總量
萩	東分	一	一	一	高	部	一	一	一
椿	東分	一	一	一	吉	部	一	一	一
山	見田	一	一	一	福	川	一	一	一
三	見田	一	一	一	紫	井	一	一	一
明	木	一	一	一	大	井	一	一	一
佐	並	一	一	一	奈	古	一	一	一
川	上	一	一	一	宇	賀	一	一	一
篠	生	一	一	一	福	賀	一	一	一
地	雲	一	一	一	須	佐	一	一	一
生	生	一	一	一	彌	富	一	一	一
德	福	一	一	一	小	富	一	一	一
高	年	一	一	一	田	川	一	一	一
吉	部	一	一	一	六	島	一	一	一
福	川	一	一	一	合	計	一	一	一

農家戸數ニ對スル畜牛數調

大正七年十二月末現在

町村名	農家戸數	畜牛總數	農家戸數百ニ對スル畜牛歩合
萩	八三五	五三	六
椿	三二八	三二〇	九八
山	二六八	一五三	五七
三	二九五	二二〇	七五
明	二二一	二九二	一三二
佐	二九五	二八〇	一二六
川	四一六	三二七	七六
篠	五一八	三〇八	五九
生	四〇七	二二一	五四
地	四八九	四〇六	八三
德	四七四	三四三	七二
高	八六八	五一六	七九
嘉	四一五	三四五	八二
吉	四一〇	四三四	一〇六
福	四五三	六四六	一四三
川	六三五	八〇四	一二七
合計	二七五	六、三四	六四三、六三〇

阿武郡報

第三十四號

町付名	農家戸數	畜牛總數	農家戸數百ニ對スル畜牛歩合
紫井	四八九	五六二	一二五
大井	三一	一六四	五三
奈古	四五三	四一〇	九一
字田	二三一	二二九	九九
福郷	五四五	七二〇	一二四
須賀	三五〇	四三九	一二五
彌富	三六七	四七二	一一九
小川	七八七	六二〇	七九
田崎	二五〇	二五〇	一〇〇
六島	二八二	三四五	一二〇
見島	二二一	五六三	二二〇
合計	一六二三	一〇、四二五	九〇

優等ト認ムヘキ蠶

支歐及日支配種	國蠶日一〇七號	國蠶日一〇七號
春蠶白繭種	國蠶日一〇七號	國蠶日一〇七號
春蠶黃繭種	國蠶日一〇七號	國蠶日一〇七號
夏秋蠶白繭種	國蠶日一〇七號	國蠶日一〇七號
日歐支配種ハ織度不齊ニシテ良好ト認メ難シ	×	×

阿武郡報第三十四號 大正八年五月十五日發行 ©大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 ©每月一回十五日發行 一部代價金拾錢

(10)